



私のひとりごと

「大嫌いな運動会」

スポーツの秋、各地で運動会が盛んに行われている。ちなみに私は運動会が大嫌いである。運動オンチで足が遅く、子供の頃から運動会では随分みじめな思いをしてきた。小さい頃は、確か50m走で20秒以上掛かったと思う。一番ピリが私の指定席で、足の速い人がうらやましくて仕方がなく、世の中から運動会が無くなれば良いのにと、ずっとず〜っと思っていた。今でも、足の速い遅いは持って生まれた才能であり、こればかりは努力してもどうにもし難いと思っている。とにかく私の運動オンチは並外れていて、小学生の頃、男の子なら誰でもするソフトボールでヒットを打った記憶がない。目をつぶって振ったバットに、ボールから当たってくれたとか、外野フライにたまたま出したグローブめがけて、ボールが飛び込んだ



【元気で楽しそうな姿をみると、無条件で癒されます】

ぐらいの経験がある程度で、とにかくヘタクソだった。小学6年の時、朝礼で「ソフトボールの選手は、朝礼後グラウンドの隅に集まって下さい。」と先生の声に、5～6年生で私以外は選手や補欠で集合し、私一人がポツンと広い校庭に残された状況は、今でも鮮明に覚えていて、運動嫌いを決定づけた出来事である。それ以来チームプレーを必要とする競技には、一切関心を示さなかった。特に運動会はその最たるもので、笑顔で競技するなど信じがたく、唯一の楽しみは母親が作ってくれた弁当だけであった。

それでもスポーツに全く関心が無かった訳ではない。一人でコツコツと努力する格闘系にのめり込み、当時流行っていた、ブルース・リーの影響で空手を始める。全国大会で優勝経験のある師範が在籍した、長崎県本部道場にも出向き二年間練習に励んだ。20代は空手漬けの毎日であり、30代になると子供たちに空手を教えるなどしていたが、仕事との両立が難しくなり、20年近く続けた現役を引退した。華々しい戦績は残せなかったが、優勝経験や入賞経験もあり、何より一つの事を長く続けられた事が宝物となった。これまで頑張ってきたのも、あの時の惨めな体験が根底にある。運動オンチな私でも何かでヒーローになれるかもしれないと、信じて諦めなかったのが良かったのかもしれない…。

さて話は運動会に戻るが、今現在、全くご縁が無くなったわけでもなく、地区の運動会では玉入れのみエントリーされている。さすがにこの競技は運動神経に左右される事もなく、誰が投げた玉が入ったのかも解らず、私にはうってつけの競技である。ちなみに、今のところは一般チームでの参加であるが、そのうちシルバーチームでお声が掛かれれば、参加するか否かは不透明。また、最近では孫の運動会に借り出されることもある。おじいさんとする競技もあり、前日から「一緒に出てね。」とお願いされれば、運動会が待ち遠しい。私の人生で、運動会が楽しみと言う日が来るとは驚きである。孫の中には走るのが得意な子もいれば、そうでない子もいる。それも「個性」と優しく見守っているが、彼らがスポーツなどで壁に当たった時、おじいさんの体験談を話せることがあるかもしれないな〜と、ひそかに楽しみにしている。

ではまた来月もお会いしましょう。

今月も最後まで読んでいただき…、

あっばい
ございました!!

